

# RQ災害教育センター

2023年能登半島地震 石川県珠洲市での被災地調査と珠洲焼応援団参加報告

森 高一（日本エコツアーリズムセンター共同代表/RQ災害教育センター事務局）

# 概況

2023年5月5日14時42分に、石川県能登半島を震源としたM6.5震源の深さ12kmでの地震が発生。珠洲市で最大震度6強を記録しました。

能登地方では2020年12月以降群発地震が続いており、2022年6月19日には珠洲市で震度6弱が起きています。その際も建物への被害が発生しており、珠洲焼にも大きな被害が出ました。今回の6強の揺れはこれまで経験のない強さで、珠洲市正院町付近で建物への被害が多数発生、珠洲市内で1名の死者、石川県・富山県で約50名の負傷者が出ています。政府は6月9日に珠洲市を局所激甚災害に指定しました。

RQとしては、発災直後より森高一が現地の知り合いの陶芸家とコンタクトをとりヒヤリングをしながら、現地で立ち上げる活動に伴走してきました。

6月12～14日に森由美と現地へ向かい、珠洲焼陶芸家による「珠洲焼応援団」のボランティア活動に参加。合わせて現地の被害状況、ボランティアの活動状況を調査しました。

## 社協によるボランティア活動

珠洲市社会福祉協議会で、ボランティアセンターを開設。原則金曜から日曜

（当日9時受付）に、石川県在住者を対象にボランティアを募集し、市内での被災先で片付けや被災者支援を行っている。

県外からのボランティア受付は行っておらず、また「危険」判定の家屋での活動も自粛しているとのこと。

# 珠洲市正院町付近の被災状況（2023年6月14日撮影）



建物被害が多かった地区の街並み



発災から1か月余り。建物の診断が進んでいる



この建屋は「危険」判定



壁が落ちたままの家屋も



屋根の修理中



珪藻土の切り出し七輪の工場。建屋に傾きが

# 珠洲焼応援団の活動

珠洲焼応援団 (舟見有加さんfacebook)  
<https://www.facebook.com/yuka.funami>



珠洲焼の陶芸家・篠原敬(たかし)さんのギャラリー「舟あそび」。パートナーの舟見有加さんが運営している。  
今回の「珠洲焼応援団」の拠点であり、ここでまかない隊が食事を担当する。



今回の地震で破損した珠洲焼。  
元は中世に隆盛し、日本海沿岸を中心に流通したが、近世以降途絶えていた。戦後、陶芸家たちがその復興に取り組み、現在は40名ほどの作り手がいる。  
黒い素焼きの焼き物で、甕や壺のほか、ビアマグや皿、鉢、カップなどがつくられる。

珠洲焼応援団2023 団員  
第2弾募集！

## 【窯積み隊募集！】

8/1(火)~8/4(金) 各3名

8/5(土)・8/6(日) 各8名

〈仕事内容・日程〉

新しい窯の構築作業

モルタルこね、レンガ運び、

レンガ積みetc

# 珠洲焼応援団の活動

発災当初の窯の状況（篠原さん提供）  
26年前にご自身でくみ上げた窯が崩れ、仕える  
状態ではなくなる。



組んでいたレンガがずれ、窯の内部に落下。  
窯全体に隙間が生じる。

# 珠洲焼応援団の活動

今回の珠洲焼応援団の活動は、6月10日～14日の予定で、窯の解体と使っていたレンガの回収（付着している不純物を取る）を行うもの。レンガ総数3,000個相当。



今回の作業現場となる篠原さんの工房



モルタルでついているレンガを1つ1つ取り外す



外されたレンガ（耐火）

# 珠洲焼応援団の活動

今回の珠洲焼応援団の活動は、6月10日～14日の予定取り外したレンガは、多くに長年にわたって付着したガラス質や炭素質があり、それを鉄製のたがねで落としていく。



用意された道具類



今回の主な作業はこちら。1人1日あたり40～50個ほど。根気のいる仕事に。

付着物を取り除いたレンガ



# 珠洲焼応援団の活動

珠洲焼応援団では、篠原さんらの思いから5日間現場で作業するチームと、食事を作りふるまう「まかない隊」の2チーム構成で実施された。5日間のべ70名の参加者は、篠原さん夫妻の網外から声掛けされ、能登地域をはじめ、金沢や関西、首都圏から集まった。応援団長には親交のある女優・常盤貴子さんが快諾してくれ、活動資金の寄付も。その費用が活動やTシャツ、食事等にあてられた。



参加者には、オリジナルで制作したTシャツの支給と、毎回愛情こもった食事、そして1人1作の陶芸作品をつくる特典も。参加者同士の交流も進む。

ランメニュー。手製の Pasta にサラダ。プロの料理人が毎回腕を振るってくれる



揃いで作った色違いのTシャツ